

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100206		
法人名	有限会社 熊進企画		
事業所名	グループホーム錦ヶ丘		
所在地	熊本市錦ヶ丘26番11号		
自己評価作成日	平成23年10月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4390100206&SCD=3
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 総合健康推進財団 九州事務局		
所在地	熊本市保田窪1丁目10-38		
訪問調査日	平成23年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階がデイサービス、2階がグループホーム、3・4階が特定施設で多機能を活かし、合同での行事を年に数回、開催し交流を図っている。定員9名で家庭的な雰囲気の中、食事の支度や洗濯物たみを始め、御入居者様一人ひとりに応じた力を発揮できる場を作り、日々張りのある生活が送れるように援助させて頂いています。また生活リハビリのほかに、体操、廊下歩行なども行っています。食事は管理栄養士が立てた献立を基に入居者の好みを反映させバランスの良い家庭料理を提供しています。職員は月に1度のホーム内ミーティングや施設内研修に参加し、介護知識や技術の向上に努めています。2ヶ月に一度の運営推進会議の案内書にグループホーム通信を作ってホーム内の様子や行事の写真を載せて、近況状況を報告しています。御入居者様、御家族様、共に安心して御利用頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな町並みのビルの2階にホームがあり、エレベータからおり4～5歩でドアを開けると、そこは別な空間でビルの中とは思えないような、木調のホームが存在している。照明が柔らかに工夫されており居間はゆったりした気分が味わえるように低いソファが設置してある。ビルの2階だがベランダには好きな野菜や花などをプランターで楽しめるような工夫がされている。ビル全体が福祉関係の施設になっており、法人全体での職員教育や、心理学の専門家が会議に参加するなど組織的に運営されている。医療的な対応も24時間訪問看護ステーションとの連携などが図られており、看護スタッフも充実して食事は栄養士が献立を立て健康管理されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念の唱和を全員で行っている。内容を理解した上で意識化し、御入居者全員が、その人らしい生き方が出来るようにゆっくり寄り添い地域の住民になれるための支援を行っている。	毎朝法人全体、各事業所合同朝礼で理念の唱話を全員で行っている。	法人全体の理念とホームの理念がきちんと明示化されることで、更にホーム全体の理念共有がなされ、サービスの質の向上に繋がることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流サロンや運動会に参加している。交流サロンでは年に2回、事業所が担当して事業所の施設訪問を受けたり、サロンのお手伝いとして、サロン参加の方の健康相談や血圧測定を看護師が行っている。	月1回の地域交流として校区のコミュニティセンター関係の化粧講座や運動会へ職員と利用者が共に参加していた。	周辺は民家が少なくビルが多いが、近隣住民の来訪や日常的な地域との相互交流で、ホームが今まで以上に活気つくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流サロンのお手伝い時や話し合い等で話している。中学生のナイストライやヘルパー等の資格習得の為の実習生の受け入れを通して、認知症の説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度の会議を持ち、グループホーム内の利用者の状況、行事内容今後の予定等を毎回、報告している抱活支援センターや民生委員の方からは地域の状況を話し合っサービス向上に繋げている	2ヶ月に1回運営会議が開催され、複数の現場職員が参加し、利用者、家族、校区の社協、民生委員、地域包括支援センターや経営陣と、多方面からの参加があり、ケアや施設の整備、事業計画などサービスの向上に向けて話し合われてる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年から新たな取り組みで、市の相談員派遣事業の受け入れをお願いしている。介護に対する疑問、不満、不安など話し合っサービスの向上に取り組んでいる。	今回初めて、市の相談員の派遣を受け入れられ、利用者へのサービス向上に前向きな姿勢が見られる。地域包括支援センターの職員とは、電話での空き情報などのやり取りが頻回に行われている。	市の相談員の報告を生かしてもっと細かく個別の対応を図り、利用者が主体的で活気ある生活を営めるようになるよう期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合ったり、グループホーム内のミーティング時にスタッフ全員で勉強し身体拘束となる具体的な行為、弊害を理解している。毎日のケアの中で拘束にあたるか否か常に検討してケアをしている。	施設内の研修や、法人全体での研修で身体拘束や虐待の研修が行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で取り組みが徹底しており、社内研修時グループ討議を行い、日々のケアで虐待にあたるか否か話しあっている。職員の言葉使いによる精神的虐待にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い勉強したり外部研修の参加を促して少しでも理解できるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御本人様・御家族様に十分な説明を行い不安や疑問点が残らないように話しあっている。また改定時には前もって、お知らせを行い、個別に説明を行い理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望はいつでも申し立てできる旨説明しており、意見箱を設置しているが、活用されていないのが現状である。運営推進会議でも御家族様が、話せる時間を設けており今後の運営に反映できるよう努力している。	家族からの要望は殆ど無いが、時々家族から電話で様子を聞かれるときがあるので、十分な交流に心がけている。運営推進会議には毎回家族も参加されており、意見を反映できる仕組みはできている。	利用者・家族がもっと積極的にそして気軽に意見を表明できるようにするための聞き取りの工夫をされるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時・毎月1度のミーティング・ケアカンファレンス時などを利用して職員の意見、提案を聞き、話し合い運営に反映させている。	ホームのミーティングには管理者や心理カウンセラーも同席し、情報の共有化や組織の強化に向けて話し合われている。第3者が入ることで、客観的な視点で話し合いが行われ運営改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームに頻繁に来られ職員に話しかけられている。職場環境・条件などについては個別に話しが出来るように配慮していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で施設内研修、新人研修など定期的な研修の開催があっている。内外の研修に参加できる機会を設け、知識、技術の向上に努めると共に資格習得の為の研修にも参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のグループホーム連絡協議会の参加や協議会の研修を通じ同業者との交流を持ち情報交換をしている。同会社の施設やグループホームとの交流の機会を持ち情報交換しながら共に学ぶ機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様が相談に見えた時、御本人様の意向、困っている事や不安な事などを聞き取り、安心して入居できるよう配慮している。利用前であっても相談に応じられる事も説明し、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や直接相談に見えたとき、困っている事、不安な事、要望等を伺い、思いを受け止めるよう努め、いつでも相談に応じられる事も説明し、安心できる環境作りに努め信頼関係を構築できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら生活面、身体面、認知面、経済面等を把握し、グループホームに限らず、御本人様の状況に適したサービスが出来るように、また他施設の相談員とも連携をとり、検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の仕度や、洗濯物を片付けたり、家事などは分担して行うように努めている。生活歴の中で馴染んだことを役割とし、雑巾を縫ってもらったり得意なことを活かしながら共に暮らす関係を大切にしたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会ある毎に報告し、御本人様の気持ちや身体状況、生活の様子を把握して頂き、御本人様の生活が豊かなものになるよう、特に精神面で支えて頂けるよう協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様や知人の面会時は居室で過ごす時間をつくる配慮をしている。運営推進会議の案内状と共に通信を添付したり、職員と一緒に御家族様等に年賀状を送り、馴染みの人との繋がりを確認できるよう援助している。	面会時などには、居室で話をされるような配慮が行われている。	個々の馴染みの場所への外出の機会を作るなど、更に積極的な施設からの支援により、馴染みの関係を継続出来る環境づくりを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴、性格を把握し、男性は男性同士などの交流の場を設定したりしている。お茶の時間など御入居者様同士で声を掛け合う姿が見られている。またソファーに座る時等も譲りあう姿も、みられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いてきた関係を大切に、いつでも相談に応じる体制であることを説明している。退去された御家族様より、相談や、現状の報告がされており、できるだけ相談や助言ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様に希望を聞き日頃の会話の中で意識して意向を見出せる言葉掛けをするように努めている。困難な方には言動や表情から思いを読み取り、職員間で検討し利用者本位のケアが出来るように努めている。	髪のカットや衣服への本人のこだわりにきちんと目を向けて、菜園の水遣りが好きな人にはその作業の場を作ったり、喫煙や晩酌など、本人の希望に沿う支援を心がけられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様や御家族様と面談して、入居前の生活を把握し出来る限り家庭での生活を継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、健康観察を毎日行ない、一日の過ごし方、活動内容やその様子を申し送りして現状把握に努めている。アセスメントシートを活用し、できる事、できない事を知り、個人の生活リズムを築き上げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、職員から情報収集し、ケース検討会で話し合い、統一した見解で介護計画を作成している。評価に基づき職員間にてサービス内容の検討や変更・継続の有無をカンファレンスにて行っている。	ケース検討会で話し合って作成した介護計画を、全員が共通認識として持てるように書類等もよく整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿い、ケアの状況、結果を個別記録している。日々の様子から気付いたことも記入し内容を申し送り情報共有している。気づきや職員の思った事を記録する事により介護計画書の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その人に必要な支援が出来るように取り組んでいる。またディサービスや特定施設の職員と年に数回の合同行事を計画し交流の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事(花見)や様々な行事には社会福祉協議会会長や民生委員さんからボランティア紹介などの協力を得て事故のない様に配慮を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様と話し合い、要望に沿った対応を行ない、入居前の主治医に継続した医療を行っている。病状の悪化時などには医療との連携により早期発見に努め適切な医療が受けられるよう支援している。	自宅でのかかりつけ医をそのまま継続しているが、家族や本人の希望で主治医変更にも応じている。受診は基本的には家族に依頼するが、必要に応じてホームで対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師と医療連携体制をとっており週一度、看護師による訪問健康観察を受けると共に24時間相談ができ、迅速に適切な対応が取れる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては御家族様との話し合いを持ち安心して療養できるよう配慮を行っている。入院中の状況を把握し病院のスタッフと情報共有しながらスムーズな退院、その後の適切なケアが提供できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様の意向を確認し医療関係者を交えた話し合いを持ちグループホームとして出来る限りの対応に努めると共に事業所のできる事、又困難な事を理解してもらっている。医師、看護師も含め方針を共有し支援している。	入居時に重度化したときの看取りケアについての説明を行い契約も交わしている。また、24時間対応型の訪問看護ステーションと連携を取っている。家族の希望で途中入院になるケースにも意向に合わせて対応あれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し熟知徹底すると共に定期的な社内研修の中でAEDの操作方法や蘇生法を実践し、緊急時の連絡方法も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者指導の下、定期的な防災避難訓練を実施、設備などの使用方法を学び、災害時に迅速適切な行動が取れるように取り組んでいる。地域の方とも避難方法の話し合いを運営推進会議を通して行っている。	法人ビル全体で防火管理者指導の下、年2回程度の訓練が行われている。スプリンクラーも設置され70度以上を感知した際には作動し、非常階段の施錠が自動で解除できるシステムになっている。緊急の時には同法人のタクシー運転手の協力も要請されている。	今後は夜間を想定した、実際の訓練等の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御入居者様一人ひとりの尊厳を大切にし御本人様の権利を意識し適切な対応に努めている。特に言葉遣い、虐待防止については研修等を行っている。排泄時等の方法も常にプライバシー保護を厳守している。	緊急時には合鍵での対応が可能なので、普段の入浴・排泄の際には中から本人が施錠できるようにしている。またプライバシーの保護のため排泄の案内も周囲に配慮され大きな声での案内は聞かれなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出等では内容を分かりやすく説明し自己決定してもらうようにしている。御本人様が自己決定できるような環境づくり、言葉掛けをすると共に言動からニーズを読み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を理解、把握して、その日の体調に合わせた生活が送れるようにしている。また事故のないように注意しながら、居心地の良い生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や場に応じた衣類などのアドバイスをしている。洋服の選択は御本人様に行っているが毎日同じ服にならないように配慮している。また外出や行事の時はその方らしい身嗜みができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のコミュニケーションの中で好みの食べ物、調理法などを知り食事やおやつに生かしている。個人のできることを把握し、食事の盛り付け、食器の片付けなどを一緒にやっている。	食事は栄養士により1600キロカロリーに計算され健康に配慮されている。利用者の意向で時々おやつのお買い物に出かけられている。食事の盛り付けや配膳などは一緒に行えるような配慮がなされている。	健康には十分配慮されていますが、今後はもっと食事を楽しむ事が出来るようなアイデアを工夫してもらうことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事形態(きざみ・ミキサー・一口大・二度炊き・とろみ)の提供に努めている。食事摂取量の把握を全員行い必要な方の水分量もチェックし脱水にならない様に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた援助法で起床後、就寝前、毎食後口腔ケアを行っている。また必要に応じて定期的な歯科受診・健診を行っている。通院困難な御入居者様は訪問歯科で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンをチェックし把握した上で時間、表情などで声かけ、誘導を行ないトイレで排泄出来るように努めている。トイレでの排泄が続けられるよう自立に向けた支援を行っている。	昼夜ともオムツの人は全く無く、排泄のチェック表を用いその人にあった排泄案内が昼間はトイレ、夜間はポータブルトイレで行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行ない記録し把握している。看護師や、主治医と相談している。水分チェックにて水分が不足しないように心がけ、毎日運動の時間をもち身体を動かすようにし、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っているため、御本人様の希望時に入浴ができるように配慮している。一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと入浴を楽しんでいただいている。	月～金までの10時から16時までの間に利用者の希望に応じ入浴を実施している。拒否があっても、案内時間の変更や人を変えて案内するなど工夫され気持ちよく入浴をしていただけるような工夫がなされ3日以内の入浴に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンやその時の状況に応じ休息がとれ、くつろいで過ごせるように支援している。日中に活動の場を提供して、夜、安眠できる生活リズムが整うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴及び内服薬の用法、副作用について理解しており、誤薬などないように、与薬時チェックを職員2名で確認している。また症状の変化について観察し看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様の体調に合わせて家事手伝い（食事の盛り付け・洗濯物たたみ・カレンダー作り）の声かけや好きな漢字ドリルを行ってもらったり、パズルゲームやトランプゲームが出来るように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物など体調や天候を見ながら支援をしている。また御入居者様の希望を聞き、相談しながら行き先を決め、ドライブに出かけたり、交流サロンに出かけたり地域の人々との交流が持てるよう支援している。	天候やその日の利用者の希望に沿って、近隣で散歩を行っている。月1回は職員と一緒に地域のコミュニティセンターのイベントなどに参加している。	家族と一緒に出かける機会を作ったり、普段はいけないような場所への外出を企画するなどの工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中で必要に応じて支払いを行っている。必要時一緒に支払いを行い預かり金があること理解してもらい安心感に繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族やなじみの方から手紙や贈り物が届いたりした時は一緒に電話をかけたり、本人の交流関係が円滑に継続できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度・遮光などの調整に気をつけて家庭的な雰囲気作りと、プライバシーへの配慮に努め、くつろいだ生活ができるように支援している。	柔らかな照明で、ホーム全体が優しく、木材を中心とした設計でビルの2階とは思えない雰囲気である。空気清浄機があり湿度まで配慮されている。居間からベランダが見え、利用者の名前入りのプランターが設けてあり見て育てて楽しめるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファ等、好きな場所で塗り絵やゲームをしたり、童謡を歌ったり、ハーモニカを吹いたり、木琴を叩いたり、また一人でテレビや新聞を見たり、自分の時間を楽しくてくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様、御家族様と相談し、使い慣れたなじみのある家具を持ってきてもらい、本人の住んでいた部屋と同じような空間でその人らしい居室で安心して落ち着いて過ごせるように工夫している。	夫婦で入居されている場合は、1部屋はベッドルームとして、もう1部屋は夫婦の居間として過ごされる等利用者の意向に沿い工夫されている。好みの椅子やテーブル、筆筒などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る能力を把握し、居室のネームプレートを大きくして理解しやすいようにしたり、トイレの名前も昔の名前で張り紙したり、工夫して安全に配慮しながら自立支援を行っている。		